

## 第4回「メディア・コンテンツ大賞」16点決まる

### 最優秀賞は 新宿キャンパスの和田浩子さん

本学主催で毎日新聞社後援の「2008年度メディア・コンテンツ大賞」の表彰式がこのほど梅田キャンパス内で行われました。

今年で4回目となる本年度の応募は小学生から大学生まで、コミックス、カートゥーン、キャラクター、ショートストーリー、絵本、アニメの各ジャンルから計781点にのぼり、審査委員長の松本零士教授を中心に選考し、このうち16点の入賞を決めました。

表彰式は、毎日新聞大阪本社の鈴木敬吾学芸部長、本学から崎田喜美枝学長、松本教授らが出席し、入賞者のご家族や友人の学生らが見守る中、各賞の授賞と講評、作品紹介を行いました。式が終わった後に入賞者全員での記念撮影と、葛佐博講師らと懇談を行いました。

なお、入賞作品の展示会は新宿キャンパス7階図書室で4月1日(水)から15日(水)まで午前10時～午後6時まで開かれます。

(朝野富三教授)

本学学生の入賞者は以下の通りです(敬称略)。  
松本零士賞・最優秀賞＝和田浩子(マンガ・アニメコース2年、新宿キャンパス)  
毎日新聞社賞＝宮地彩(イラストコース、宝塚キャンパス)  
特別奨励賞＝西村祐太他(マンガ・アニメコース4年、同)  
奨励賞＝五百森祐馬(マンガ・アニメコース2年、同)  
佳作＝中村南都美(マンガ・アニメコース3年、同)



後列右より：中村南都美、五百森祐馬、西村祐太、中島理、西川翔太、細川翔矢、真嶋絵理  
前列右より：宮地彩、和田浩子、松本零士教授、佐々木理奈、柴田三枝  
※中島、西川、細川、真嶋は西村祐太と共同制作

### 作品評

1. 大学・専門学校の部 最優秀賞・松本零士賞「Lost Shangri-La」和田浩子  
昨年のメディア・コンテンツ大賞に続き絵本が最高賞を射止めました。『幸せの青い鳥』の話を主題にした絵本作品で、ブルーがとても印象的です。男の子の大切に飼っていた青い鳥が逃げたため、森へさがしにいきいろいろな人や怪物に出会うファンタジーです。人の心を吸い込んでしまうような不思議な魅力があります。

2. 大学・専門学校の部 毎日新聞社賞「月と夜の仔」宮地 彩  
月に恋をして月を盗んでしまう男のお話です。月を自宅につれて帰り喜ばせようと目いっぱいもてなすのですが、月はどんどん輝きをなくし男は見えていられなくなり、月をもとの空に返そうとします。月の輝きとにじんだような緑色がかった風景が夢の世界をすてきに演出しています。

3. 大学・専門学校の部 特別奨励賞「つぎはぎクーちゃん」西村裕太ほか  
クマ(クー)のぬいぐるみは、主人の女の子とは赤ん坊のときから一緒に時をすごしてきましたが、成長とともに女の子はクーのことをかまわなくなっていく。モノを大切にしない人間への失望をテーマにしたアニメ作品です。ストーリー性が高く規定外(11分)でしたが、急遽特別賞に選出された作品です。

4. 大学・専門学校の部 奨励賞「MORTAL」五百森祐馬  
無国籍な未来世界の町で起きた教祖殺し事件、犯人を追い詰めるのは神を信じないニヒルな賞金稼ぎ、片腕にロボット義手を装着したアウトローです。繊細な描線がクールな雰囲気効果的に演出しています。

5. 大学・専門学校の部 佳作「ストロベリーショートケーキ」中村南都美  
パパの誕生日に作ったイチゴケーキの出来上がるまでを絵と文で丁寧に解説します。絵本が進むにつれて頭の中でケーキが少しずつ出来上がっていく感じ。

ケーキ作りの楽しさが実感できる作品ではないでしょうか。

(解説 マンガコース 柳たかを教授)



松本教授から松本零士賞の副賞「キャプテンハーロック」のフィギアを受け取る和田浩子さん  
あいさつをする崎田喜美枝学長

### 身近な幸せさえ失ってしまったら人はどうなるのでしょうか 東京メディア・コンテンツ学部 マンガ・アニメコース2年 和田浩子

私の周りはずい人であふれていると思います。絵の技術やセンスはもちろんですが、人間的にも優しく良い人達に囲まれていると思います。それは日頃、自然すぎて気付かないことが多いですが私はある出来事を通して、それに気付く事が出来ました。そしてその事が今回の絵本を描くきっかけにもなりました。本来の「幸せの青い鳥」は遠くの幸せを望んでいたけれど実際の幸せは自分の目の前にあった、というのですが、その身近な幸せさえ失ってしまったら、人はどうなるのでしょうか？私は今回の話において失った者、失った者のたどり着いたところを描きました。しかし、

怪物を除いて、他のキャラクター達のたどり着いた先は描きませんでした。それは怪物のたどり着いた答えの他にも、別の答えが存在するからだと思えます。現に私も一人のままだったら怪物と同じ「答え」を出していたかもしれません。しかし、私の周りには最初に述べた様に素敵な人達に囲まれていました。だから怪物の様にならなかったのだと思えます。そして絵本の中の男の子はまだ答えを探している最中です。

青い鳥を探していた男の子の行く先は読んで下さった方のご想像にお任せします。



嫌いになりました。大好きなものを嫌いになるということは悲劇です。私はあんなに大好きだったいちごを、視界に入れただけでも舌打ちしたくなるほど嫌いになりました。実際、何度かした覚えがあります。それから、少なくとも1年は完全にいちご断ちをしました。今ではいちごもよりを戻し、穏やかなお付き合いをさせて頂いております。

### 東映京都撮影所でのインターンシップ 映画コース 3年 三宅尚子

このたび東映京都撮影所でインターンシップの体験をさせていただきました。積極的であること、努力を惜しまない事の大切さをあらためて学びました。

京都撮影所の衣裳部で私は二ヶ月を過ごしました。はじめは演技事務所に配属されていたのですが、初日の自己紹介で衣裳部志望だということを伝えると、快く衣裳部に再配属していただきました。

前々から東映の衣裳部は厳しいと聞いていたのですが、そんなところで自分がどれだけ出来るのだろうかと思っていたのは、不安でたまりませんでした。

二日目は誰からも仕事を与えられず、役者さんに衣裳を着せて送り出し、帰ってきた役者さんの衣裳をたたみ、片付けるという流れを理解するだけで、大鏡の

すみから様子をみているだけでした。翌日からは時間があくと先輩から着物のたたみ方を習い始めました。今まで着物を床に置いてゆっくりとたたんでいたのですが、「速く・的確に」が大事な衣裳部では全く通用しませんでした。私が、衣裳部が必要とされる存在であるためには、すぐにいろいろな着物の畳み方、衣裳部流の洗濯物の畳み方、各作品のトップの人の畳み方や着付けを覚える必要がありました。そうしないと、誰も必要としてくれないし、来た意味がないと思ったのです。

衣裳部の先輩方に言われたことは、「あいさつの大切さ」と「出来るとわかるは違う」という2つです。例えば、着物の着付けが理解できても、実際にそれが出来るとは限らないです。「何事にも謙虚に努力しなさい」ということでした。袴(はかま)などもたたむ機会がなく、先輩方が2枚を正確にたたむ間に、私は1枚がやっとなりました。何度も何度もだめ出しされ悔しい思いをし、その度に仕出し(エキストラ)用の袴で練習したものでした。

撮影現場へは、松平健さん主演の「主水之助七番勝負」で2週間、西田敏行さん主演の「火天の城」のロケの100人エキストラの着付けの応援で1日つきました。「主水之助七番勝負」では、衣裳部に入ってすぐということもあって、衣裳部としての仕事はほとんど何も出来ませんでした。衣裳部の仕事がない時は、照明部が美術部の手伝いをしていました。しかし、森本監督をはじめ、撮影部や照明部、役者さんにも大変可愛がっていただいたので、森本組アップの時は感極まって、ナイトロケ先の映画村から衣裳部屋までの帰路で号泣してしまいました。今思えば恥ずかしいですが、あの時の私にとって、他の部署の方々からの「また来いよ」「待ってるからなあ」という言葉はたった2週間でもとても嬉しかったのです。

東映衣裳部は私には、楽しくもあり、厳しいところでもあり、そして一生懸命努力すれば報われるということも体験しました。ひとつの作品に多くの人が関り、その中で叱られたり励まされたりし、毎日が本当に充実し、無駄な時間はありませんでした。あの二ヶ月は本当に贅沢で幸せな日々でした。ですから、卒業後はこの業界の仕事にチャレンジしたいと心から思います。今回の経験を次にしっかりと繋げていきます。

## 図書館だより

### 新着図書紹介 ～おすすめの図書5冊～

図書館次長 月本 一武

本学の図書館は毎月平均約150冊の図書を新規に購入しています。平成20年11、12月の関係分約300冊の新着図書。そのなかから、おすすめの図書5冊を図書館次長の月本一武さんに選んでもらい、コメントしていただきました。最近、学生に対して一般教養の充実を求める声が各方面で高まっています。このため、本学でも専門書だけでなく、教養書コーナーの増設に努めています。こうした動きを近く図書館特集で、お知らせする予定です。

#### 1.「鎌倉彫彫刻刀と砥石」 石垣忠志著

彫刻刀の歴史と、長年鎌倉彫を手がけてきた著者の経験・研究をもとに彫刻刀の制作方法・種類・求め方・研ぎ方・砥石などについてまとめたものです。

今月新着の図書ではありませんが、興味深い内容です。著者より寄贈していただきました。

#### 2.「カラー図鑑 カメのすべて」 高橋泉著

「爬虫類・両生類800種図鑑」 長坂拓也編著  
「芸大生が絵を描く資料としてすぐれているカメの図書を紹介します」と須磨水族館の学芸員の方にお問い合わせしたところ、快く紹介して下さったのがこの2冊です。現在新刊書は入手不可能の為、古書で入手しました。

#### 3.「A4一枚でスピードアップ!「通る」企画書・報告書が60分で作れる本」 藤木俊明著

タイトルそのままの本。様々な企画書や報告書を作成する上で役立つ本です。

#### 4.「石内尋常高等小學校 花は散れども」 新藤兼人著

新藤監督の同名映画作品の撮影日記やシナリオなどが収録されています。

#### 5.「高野野十郎画集 作品と遺稿」 高野野十郎著

東京帝国大学農学部水産科出身でありながら、画家として生きた高野野十郎の作品と遺稿をあつめたもの。学生からのリクエストにより購入しました。

## 本学の講師や学生が 北京パラリンピックのラジオ中継に活躍

### 日本福祉放送の20周年特別事業に協力

2008年北京パラリンピックのラジオ中継生放送に本学講師や学生が大活躍しました。社会福祉法人視覚障害者文化振興協会の運営するJBS日本福祉放送（大阪市）が20周年特別事業として編成した同パラリンピック特別番組に現地取材班として参加したのです。

ミートンイン講師、渡邊哲意講師、それに放送コース3年、木本清士さん、同2年、鈴木春香さんの4人が協力しました。

中国政府機関から任命された中日芸術交流大使でもあるミートンイン先生がプロデューサー、渡邊先生は現地ディレクターとして期間中、北京に滞在し、2人の学生は日本福祉放送大阪放送局にアナウンサー役として詰めました。

みんなの評判は上々でした。ただ、ちょっとしたハプニングもあり、渡邊先生が、機材のセット・取材・編集・アナウンスと1人4役で駆け回った5日間もありました。

### 渡邊先生が1人4役のアクシデントも

渡邊先生が一番の仕事は、パラリンピック会場のプレスルームに音声通信システムのセットアップすることでした。アナウンサーは東京在住のフリーアナウンサー生田ざりさんが努めることになっていました。ところが思わぬハプニングが起きました。中継2日目に生田さんが体調を崩し、緊急入院してしまいました。さあ、たいへん。渡邊先生がアナウンサーと選手レポートも兼任するはめになりました。

マイク・パソコンをかついであちこちを歩き回り、機材のセットアップ、資料集め、選手レポートや取材、音声データ通信、むろん生放送も、渡邊先生に降りかかってきました。その後、生田さんが復帰するまでの5日間、てんやわんやでした。



北京国家体育場（鳥の巣）の記者席でノートPCにヘッドホンとマイクを装着し競技を中継する渡邊哲意講師。



JBS大阪スタジオで放送中の放送コース3年生、木本清士君（向かって左）と2年生の鈴木春香さん。

### 車いす少女と聾唖（ろうあ）のダンサー百人の舞い

期間中、渡邊先生の心に残ったシーンを2つあげていただきました。▽開会式のパフォーマンス。

車いすで演じる華麗な少女のバレエと、それを取り囲む百人以上の舞姫たち。少女は4か月前の四川大地震で左足を失い、舞姫たちは耳が聞こえず、話せない聾唖（ろうあ）のダンサーたちです。そして舞姫たちの腕には少女の失われた左足を象徴するようにバレエシューズがついて、一緒に踊っているのです。おたがいが足りないところを補ない、助け合っている、そのことを誇らしく謳い上げるような感動的な舞いでした。

### ロープを50メートルつたって点灯

聖火の入場は過去のパラリンピックで金メダルを獲得した6人の中国選手が続きましたが、最終点灯者は男子走り高跳びで3大会連続の金メダリストの候補選手。左足が不自由なため、車いすで登場しましたが、上空から垂れ下がったロープをたぐり、50メートルの高さまで登りつめてみごと点灯し、会場は大歓声に包まれました。

### 「目が不自由になったから見えてきた新しい世界」

最下位でもさわやか！17歳の女子高校生澤田さん

マさわやか女子高校生とのインタビュー

17歳の高校生選手・澤田優蘭さんは視覚障害者。今回が初めてのパラリンピック出場です。100メートル競走の結果は最下位でしたが、インタビューにはとてもさわやかな答えがかえってきました。彼女は目が不自由になった段階で、いったん陸上競技をあきらめていました。その後、パラリンピックがあることを知り、再びトラックに戻ってきたのです。

今回は最下位だったけど、まだ若いし、たくさん希望を語ってくれました。とくに渡邊先生が印象深かったのは「私は目が見えなくなりました。でもだからこそ、今回のような新しい世界を知ることができました」という言葉だったそうです。

なお、こぼれ話ですが、2年前、本学の大学祭でロックライブで音楽プロデューサーを務めてくれた菊地圭介さんの曲が北京オリンピックの公式テーマソングのひとつに採用されました。外国人の曲では唯一だったそうです。菊地さんは現在、北京に住んでいますが、渡邊先生は久しぶりに北京で再会し、旧交を温めたそうです。

## 本学名誉教授の嶋本先生に 異例の「ボローニャ・ノーベル平和賞」!!

イタリア・ボローニャにある「マシ900美術館」は私立ではヨーロッパ最大の由緒ある施設で、とくにノーベル平和賞の受賞者を対象に独自の『ボローニャ・ノーベル平和賞』を授与することでも知られています。この荣誉ある賞を嶋本昭三先生がこのほど受けました。ノーベル平和賞の受賞者以外で選ばれるのは1970年にこの制度が発足して以来、初めてのケースだそうです。

嶋本先生は昨年まで本学美術学科で現代美術を中心に指導されていましたが、学外でもクレーンを使った空中パフォーマンスはテレビなどで再三取り上げられるなど現代美術・パフォーマンスの分野では国際的に著名なアーティストです。今回の授賞の陰には、メールアート運動を通じた嶋本先生と原爆を製造したアメリカの科学者と嶋本先生との交流があります。

メールアートはニューヨークの画家が呼びかけて始まった世界的な運動で、世界の大人も子供も自由に作品をお互いに送ったり、送られたりして交流の輪を広げていきます。画廊や美術館を通らず、お金や権威を越えたアートです。

### 受賞の陰に原爆製造の元科学者との秘話

嶋本先生は30年以上前からメールアート運動を始めており、日本の草分けです。そこへ22年前にバーン・ポーターという、いま生きておれば98歳になるアメリカの原子物理学者が来日し、嶋本先生を訪ねたのです。ポーターさんは第二次世界大戦中、米国の原爆開発計画（マンハッタン計画）にオッペンハイマー教授らと参加し、原爆製造にかかりました。けれど、広島への原爆投下を知り、「国からは爆弾の脅威を日本に知らせるだけで、本当に落とすとは聞いていなかった。自分は取り返しのつかないことをしてしまった」と深く悔い、科学の世界から身を引きました。その後、メールアートの活動を通じて、世界の芸術家、芸術愛好者たちと作品を交換したり、核廃絶を訴える詩や文章で世界平和を呼びかけていたのでした。

嶋本先生もポーターさんの呼びかけに応じ、メールアートで核兵器廃絶の運動に参加しました。

ポーターさんはいまは亡き人となったが、実際のノーベル平和賞の受賞者だけを対象にする賞を嶋本先生が異例にも受賞した理由は、ポーターさんとのこうした出会いにあったのでないでしょうか、と嶋本先生がおっしゃっています。



昨年11月、イタリア・ボローニャの会場で行われたパフォーマンスする嶋本先生（A・マルガデンさんと山本嘉子さん撮影）。

## 喜多さんの作品が神戸市立 須磨翔風高校の校章に選ばれました

ビジュアル&デザインコース3年の喜多恵子さんのデザインが神戸市立須磨翔風高校の校章に選ばれました。同高校は平成21年春に開校しますが、「デザイン都市・神戸」をスローガンにしている神戸市は校章を全国から募り、応募作品44件のなかで本学の喜多さんの作品が選ばれたのです。喜多さんに当選したデザインの発想や苦心談を書いてもらいました。

### 思い切った若々しさを！

ビジュアルデザイン&アドバタイジングコース3年生 喜多恵子

コンペに応募したのははじめてのことです。先生（植松陽一講師）にすすめられたからです。明石市在住の私は高校のある須磨と近くこれまでよく訪ねたことがあります。須磨海岸や水族館はおなじみです。すがすがしい須磨の海や空や風。とくに「翔」という文字のイメージは強かったです。辞典によると「空高く飛ぶ」などの意味で、いかにも躍動感があります。これらのイメージから「翼」をモチーフに選びました。

コンセプトは「翔風をうけとめる翼」。

いちばん苦労したのは、従来の校章の形式的なデザインのイメージがなかなかぬくえなかったことです。たとえば、高校をあらわす「高」をつかわないといけないように思っていました。しかし、新設高であり、新しい教育を目指す須磨翔風高校の方針を踏まえ、従来の校章の枠にとらわれず、思い切った若々しさを出そうと考え直しました。



## 本学の3人が漫画育成事業の 奨学生に選ばれる

### 宝塚キャンパスの田中さん、宮崎さん・ 新宿キャンパスの清水さん

財団法人上月スポーツ教育財団の第5回「漫画育成事業」の実技作品制作で本学宝塚キャンパスのイラストレーションコース2年、田中亜季さん、同、宮崎ひかりさん、新宿キャンパスのマングコース1年、清水詩帆さんの3人が3倍の難関を突破して合格し、奨学金の助成金を受けました。本学の成瀬国晴先生も審査員の1人でしたが、「それぞれ個性的な作風で将来が楽しみです」と話しておられます。

3人のそれぞれの作品と、それにまつわる思いを自由に書いてもらいました。

### 形のない空想が漫画の形になるとき

マンガコース1年 清水詩帆

絵を描く事も好きですが、お話を考えている時が一番楽しいです。自分が空想しているだけで、形のないものが、漫画として形にする事が出来るのが面白くてたまらない。そしてなお、人に読んでもらう事が出来て、楽しんでもらえるなら、最高に嬉しい。そう思うようになった時、漫画家になろうと決心しました。

自分は小、中学校と、学校に通えずにいた時期があり、他の同学年の人達がどんどん勉強して、自分を追い抜いていってしまう中で、果たして自分は、彼らより何か、一つでも出来ることがあるだろうかと考え悩んだ事がありました。何一つ自信がありませんでしたし、自分には何も出来ないように思えました。何も出来ないと思うと、どうせなら、好きな事をやって生きてみたい。とことんやってみれば、自分にだけにしか出来ない何かが出来るとも思えない。そう思い、好きなことばかりやってきて、今になって、勉強の大切さを身に沁みて感じているわけですが、何より、好きなことをとことんやろうと思ったのはこの頃でした。

ただ、人に作品を見てもらうためには、自分の好きなように描いているだけではだめだと感じました。人に興味を持ってもらえるようなもの。見てくれた人が、喜んで、悲しんだり、共感してくれるようなもの。そのような作品を描くことができたから、きっととても嬉しい。

最近は、少し前の漫画やアニメ、古い映画を見ています。

自分が生まれる前の作品など、自分が知らない、面白い作品がまだまだたくさんあるものだと思うと、それを探すのも楽しいですし、とても勉強になります。今、描かれている作品たちの根源を見るようで、感動してばかりです。

昔の自分が、夢中になって読んだ漫画のような。そんな誰かに好きになってもらえる漫画を描く事が自分の目標です。



### 空想のストーリーの中の1場面

イラストレーションコース2年 田中亜季

自分の空想の中で、1つの世界を創って、ストーリーを組み立てていき、その中の1場面を描きました。プロンドの女の子は冒険好きでお転婆な主人公。実はある国のお姫様です。その隣になっているのは執事のじいやです。2人は森を散歩していると、ため息をついてカボチャに座り込んでいるおじいさんに出会います。そのおじいさんは、なんと魔法使いでした。お婆さんとケンカをしてお城から追い出されてしまったらしいのです。「私を驚かせることが出来たら城に戻って来てもいい。」とお婆さんに言われたおじいさん。魔法使いの世界では、恐怖で心臓が止まりそうになるくらい相手を驚かせることが一番喜ばれる贈り物とされているのですが、「そんなこと、年老いた自分に出来るはずがない。」と、おじいさんは落ち込んでいるのです。「諦めないで。」何とかしてお婆さんと仲直りさせてあげたいと思った女の子は、おじいさんに言いました。そして、女の子と執事のじいやは、おじいさんに協力することに。物知りなじいやと森の住民達の知恵と力を借りて、みんなでお婆さんを驚かせるビックリ大作戦を執行します。

絵には、女の子と執事のじいやが森の中でおじいさんに出会うところを描きました。森は、不思議な感じを出したかったので、ふかふかしたカーベットのような地面にしました。女の子が持っているのはカボチャのランプです。色の組み合わせなど、いろいろ悩みましたが、描いていてとても楽しい作品でした。



### いちごが好きです

イラストレーションコース2年 宮崎ひかり

いちごが好きです。小さい頃からあの赤いものが好きでした。本当は果物ではなく野菜だそうですが、心からそれを信じている人は稀だと思います。

末の娘である私は甘やかされました。砂糖の砂糖漬けのようなものです。私がいちご好きだということで、それ食えやれ食えといちごを買ってきました。そんなわけで私は日課のようにいちごを食しておりました。私はいちごというものが大